

NAGOYA UNIVERSITY
OF THE ARTS
DEGREE SHOW 2022
archive

名古屋芸術大学グループ 通信

60
April
2023

【特集】

第50回 名古屋芸術大学 卒業・修了制作展 アーカイブ

名古屋芸術大学 音楽領域芸術祭“TUTTI”



名古屋芸術大学グループ

<https://www.nua.ac.jp/>

■名古屋芸術大学／大学院：音楽研究科 学部学科：芸術学部 芸術学科
美術研究科 音楽領域 舞台芸術領域
デザイン研究科 デザイン領域 美術領域 芸術教育領域
人間発達学研究科 教育学部 子ども学科
■名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園
■瀬子幼稚園 ■たせこ幼児園 ■愛知保育園
■幼保連携型認定こども園 森のくまっこ
■名古屋音楽学校

NAGOYA UNIVERSITY OF THE ARTS DEGREE SHOW 2022

archive



【特集】

第50回

名古屋芸術大学

卒業・修了制作展

アーカイブ

2023年2月17日(金)～2月26日(日)の間、本学西キャンパスで名古屋芸術大学卒業・修了制作展を開催しました。

新型コロナウイルス感染症拡大による非常事態宣言下、さまざまな防疫対策や安全に作品を鑑賞していただくための工夫を施した結果、多くのご来場、アクセスをいただきました。

本特集では特に優秀だった作品をピックアップし、卒展運営のキーパーソンのコメントと共に、名古屋芸術大学卒業・修了制作展を振り返ります。



全作品の閲覧は
こちらからどうぞ



「桃源郷」

卒業制作最優秀賞
美術・デザイン同窓会賞
古川美術館賞
ブライトン大学賞佳作
MOZOワンダーシティ賞



メタル&ジュエリーデザインコース
奥岡夢乃

よく使い込まれた彫金机に彫金工具と数々の作品がちりばめられた、ジュエリーの工房とショップをイメージさせるインスタレーション。「桃源郷」と名付けられた空間には、作者の思い入れを感じさせる作品と、作品に付随するものたちが集められ、心地よく、また静かな時間が流れています。驚くのは作品のクオリティとその数。質はもちろん、量に圧倒されます。制作に費やしたであろう時間の流れを感じ、展示の深みが一層増しているように感じます。

「卒業制作で作っている間、本当に好きな

ことをして遊んでいたような、そんな感覚です。大学生活の、とくにメタル&ジュエリーコースを専攻してからの3年間は、本当にやりたいことをやって充実した時間でした。最後の1年間は自分のパワーをおもいきり放出できたように思います。「桃源郷」という言葉は、奥岡さんにとって自分の名前の由来になっている特別な意味を持つ言葉だそうです。そこにさらに思索を重ねます。「桃源郷というテーマを考えたとき、名前の由来であることと花や植物、ジュエリーと、自分の好きなものにしようと思いつきまし

た。そしてもっと掘り下げ、なぜジュエリーが好きなのかと考えると、作っている時間も好きだし、道具も好き、彫金机という機能美の詰まった机も好きなんだと気が付きました。作業している時間も愛おしい時間です。展示場所としてジュエリー工房を使わせてもらえることになり、作っているプロセスや作業する場も見てもらおうのが表現したいことに一番びったりくるように思い、こうした展示にしました。作っている私の周りから、お花や植物があふれ出ているようなイメージを感じていただければと思います。」



「irene project」

卒業制作優秀賞
 ブライトン大学賞グランプリ
 北名古屋市長賞
 名古屋芸大展選出



スペースデザインコース
 高岡卓史

バリトンサックス奏者でもある作者が、バンドメンバーを集めブルスファンクバンドを結成。自身のバリトンサックス、さらにメンバーのトロンボーン、コントラバス、ドラム、チューバ、テナーサックス、トランペット専用の椅子を設計し制作した作品。楽器の形状はもちろん、演奏者の身長や演奏姿勢も考慮に入れ設計されています。プレゼンテーションはバンドの演奏に合わせてと、非常にユニークなものとなりました。

「高校時代から吹奏楽部でサックスを吹いていました。大学からは、音楽は趣味とし

て関わって行こうと思っていましたが、音楽や音に関係するものばかり制作していました。卒展では、楽団のための椅子を提案しようと思い、6月に東キャンパスで開催されたランチタイムコンサートの“まぜこみわかめ”をきっかけに音楽領域の友人の伝でメンバーを探してもらいました。

スペースデザインコースを専攻してから、サックスのマウスピースを3Dプリンターで制作したことを手始めに、課題の多くで自分の趣味の音楽を絡めたものばかり作っていたといいます。「ある先生に、君はパワー

はあるのに、ちゃんと課題をこなしていかないと、と叱られたこともありましたが。自分の好きな音楽と融合させることをテーマにやり続けていたら、デザインが大好きになりました。講評会で、本当に頑張ったねといわれ、とてもとても嬉しかったです。





「Kintoun Kits」

卒業制作優秀賞
 Brighton大学賞優秀賞



スペースデザインコース
 杉浦泰偲

建物の断熱材として使われる発泡ウレタンフォームで作る子ども用の遊具の制作キット。名前の通り孫悟空が使う「筋斗雲」のようにモコモコとした姿、軽く硬すぎず軟らかすぎない手触りも、子どもがおもいきり遊んでも良さそうです。骨組みはスチールで構成され、そこへ発泡ウレタンをスプレーガンで吹き付けて制作します。簡単な設計で扱いにくい工具を必要とせず、子どもが遊びながら思いのままに制作することができますようにしています。

「3年のときに産学連携の課題で、トヨタ

カロラ愛豊さんの店舗ディスプレイをやらせていただきました。そのとき、発泡ウレタンを知り、面白と感じました。そのときは削って岩のように作りましたが、吹き付けたそのままの形や手触りが良くて、活用したいと考えました。

それから今回の展示までの1年半近くの間、いくつもの遊具を制作し、実際に子どもたちに遊んでもらいブラッシュアップしてきたそうです。

「自分では想像していなかったことがたくさん起こりました。発泡ウレタンを吹き付け

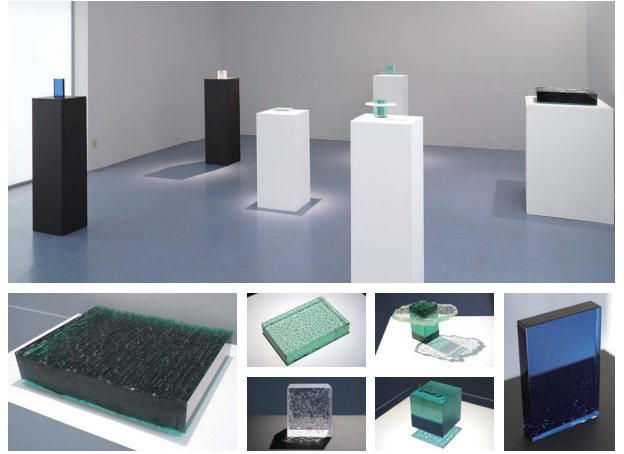
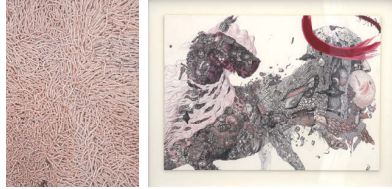
る過程を子どもたちに見せたところ、『やりたい!』という声があがり、最終的には自分で制作できるキットという形で提案することにしました。

製品化できそうな出来映えに、「どこかに提案したいと思っています」とのこと。





「HUMAN」
卒業制作優秀賞
北名古屋市教育委員会賞
ギャラリーかんしょ賞
後藤紙店賞
洋画コース
大矢龍洋



「たゆたうなかで」
卒業制作優秀賞
ブライトン大学賞奨励賞

アートクリエイターコース
櫻木亜由美



「ここから」
卒業制作優秀賞
後藤紙店賞
名古屋芸大展選出
「Music visualize」
卒業制作優秀賞
名古屋芸大展選出
日本画コース
早瀬葵
ヴィジュアルデザインコース
ジョンソンミシェル



「mass attack」
卒業制作優秀賞
名古屋芸大展選出

イラストレーションコース
菅我部晴菜



「OddCats」
卒業制作優秀賞

メディアデザインコース
鈴木朱音



まずお伝えしたいことは、入場者数です。受付で把握している人数ですが、昨年は4700人ほど、今年は5782人と1000人ほどプラスとなりました。コロナの出口が見えてきたといいますが、少し規制が緩和され気持ち

第50回卒業制作展、大学院修了制作展を振り返って

芸術学部長 デザイン領域 教授 萩原周

が軽くなってきたのかなと思うところもありますが、じつは入場者数はこの3年間、増え続けています。キャンパス開催になり5年目を迎えますが、周知が進んできたのではないかと思います。とりわけ北名古屋市をはじめ近隣地域の方がわりあい多くいらしています。気軽に足を運んでいただけることは、大学の地域への貢献としても非常に嬉しく思っています。

作品については、今年の卒業生は4年間の大学生活の3年間

をコロナ禍で過ごしてきており、規制の働いている中で生活し、自分に対する内省であったり、自身を取り巻く環境、そうしたことに対する解像度がものすごく上がっているように感じます。そうしたところから発せられた問いに対して応えていく作品が多かったように感じます。そして、総じて作品の完成度が高いものになったと思います。とりわけ優秀賞、ブライトン大学賞を受賞した作品は、質と量ともに非常に優れているのではないでしょう

か。最優秀賞のメタル&ジュエリーデザインコースの奥岡さんの作品(桃源郷)は、技術的にも作品数においても抜きん出たところがあり、多くの先生方も納得の作品でした。作品それ自体の良さはもちろん、展示空間や彼女自身が来場者にプレゼンテーションする内容なども素晴らしく、来場者の多くが感激していました。また、ブライトン大学賞を受賞したスペースデザインコースの高岡君(irene project)、杉浦君(Kintoun Kits)の作品は、



「原体験」 日本画コース
卒業制作優秀賞 新井謙成



「もしも左右が無いたら、」
卒業制作優秀賞
CBCテレビ賞
ビジュアルデザインコース
高島優香



「流動と偶然」
卒業制作優秀賞
名古屋芸大展選出
渡部航介
ビジュアルデザインコース



「smooth stone」
卒業制作優秀賞
名古屋芸大展選出
洋画コース
山本将吾



「U.COLOR」
卒業制作優秀賞
ブライTON大学賞佳作
メディアコミュニケーション
デザインコース
増田千紘



「ひとときパレード」
「ひとことポンポン」
「ゆらめくフィーネ」
卒業制作優秀賞
名古屋芸大展選出
アートクリエイターコース
田村くるみ

おそらくこれまでに似たようなテーマや視点はあったと思いますが、これまでよりもより深いところまで見て、そこから自分の表現につなげてきているように思います。丁寧な仕上がりやキットへ落とし込むところなど、自分の考えを実際の社会へつなげていこうという提案まで行っていて質の高さを感じます。ことに高岡君の「irene project」は、ボーダレスという領域間の融合を進めてきたものが、ひとつ良い形になったと思っています。アートクリエイターコース 齋藤君の「命のファンファーレ」も、期間中燃え続け、訪れた方の多くが

写真を撮る卒展のアイコンのような存在となり、印象的な作品でした。これまで音楽領域の卒業公演はコースごとに連携なく行われていましたが、今回から「音楽領域芸術祭 TuTTi」という名の下にまとめ統一した企画として行うようにできたことも嬉しく思います。来年以降、西キャンパスの卒展と連携しながら発信力を高めていきたいと考えています。今年の初めての試みとして、チャリティオークションをローターアクトクラブに中心となってやっていただきましたが、来年も継続し数年の内に総合芸

術祭というような大きな枠組みで、卒展があり、演奏会有り、演劇があり、オークションやさ

まざまなプログラムがあるような、そういった形にしていきたいと考えています。



表彰式の様子

「FEMINISM in Gender」
卒業制作優秀賞
メディアコミュニケーション
デザインコース
腰本彩桜



「NOA's ARK」
卒業制作優秀賞
メディアデザインコース
宮田果奈

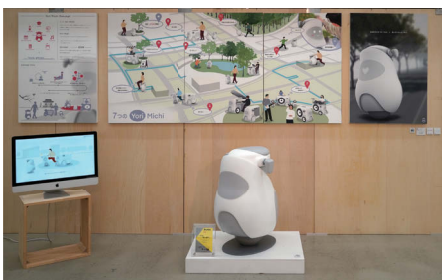


「ふれ在るー存在を
確信するときー」
卒業制作優秀賞
プライトン大学賞佳作
名古屋芸大展選出
ライフスタイル
デザインコース
宮崎千穂



「ORIGIN」
卒業制作優秀賞
プライトン大学賞奨励賞
インダストリアル&
セラミックデザインコース
都筑大由樹

「7つの
Yori Michi」
卒業制作優秀賞
カーデザインコース
増田理希



「fall tree」
卒業制作優秀賞
スペースデザインコース
村瀬奈々子

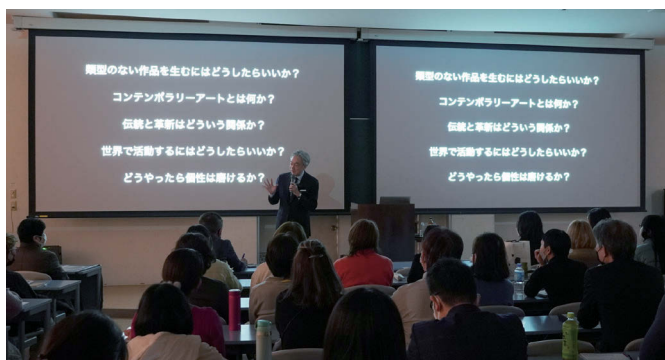


「シロ×クロ=
バディー！」
卒業制作優秀賞
文芸・ライティング
コース
新夕和幸

EVENT REPORT

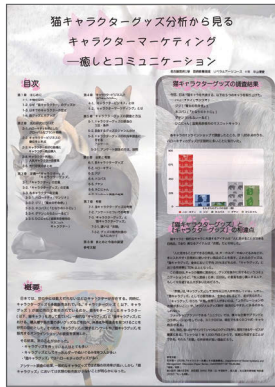
卒業制作展 50回記念講演会

千住博氏「学生の皆さんに伝えたいこと／創造の現場より」



卒業制作展 50回記念講演会第1弾として、2023年2月7日(火)日本芸術院会員である画家千住博さんをお迎えし「学生の皆さんに伝えたいこと／創造の現場より」という演目でお話しいただきました。千住氏は、1995年創立100周年のベネチア・ビエンナーレで東洋人初の名誉賞を受賞、以降イサム・ノグチ賞、日本芸術院賞など数々の賞に輝きます。作品はメトロポリタン美術館、ブルックリン美術館、シカゴ美術館をはじめ、国内外の主要美術館、薬師寺、出雲大社などに收藏され、高野山金剛峯寺、大徳寺聚光院の障壁画も担当するな

ど、現代を代表する日本画家であり、現代アート作家でもあります。講演のテーマとして、「類型のない作品を生むにはどうしたらいいか?」「コンテンツポラリーアートとは何か?」「伝統と革新はどういう関係か?」「世界で活躍するにはどうしたらいいか?」「どうやったら個性は磨けるか?」と、これらの命題を掲げ自身の経験とたくさんの映像を織り交ぜながら、考えをお話しいただきました。アートについて深く考えるようになった転機として、2013年に制作された大徳寺聚光院の襖絵「滝」を挙げ、聚光院には国宝である狩



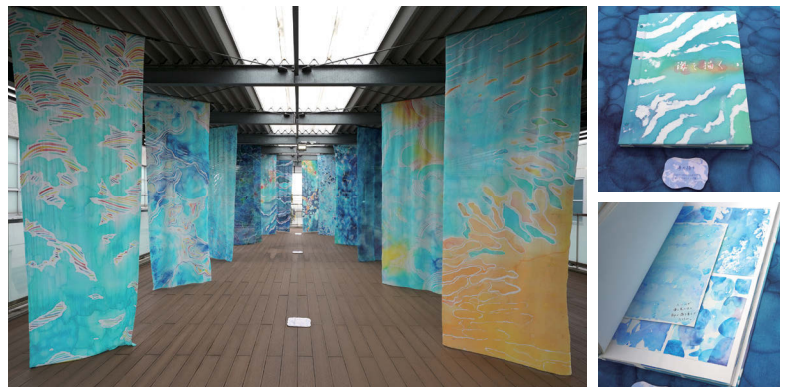
「猫キャラクターグッズ
分析から見る
キャラクターマーケティング
—癒しとコミュニケーション」
卒業制作優秀賞
リベラルアーツコース
平山滯愛



「ミュージカル
『テニスの王子様』からみる
『2.5次元ミュージカル』の
意義とは」
卒業制作優秀賞
リベラルアーツコース
奥田愛



「絵画鑑賞における
解説文の必要性」
卒業制作優秀賞
リベラルアーツコース
坂穂澄



「海の表情」
卒業制作優秀賞
テキスタイル
デザインコース
近藤悠香



「架空の惑星
ニビルの世界」
卒業制作優秀賞
名古屋芸大
選出
メディアコミュニケーションデザインコース
陸小燕



「言葉の情景」
卒業制作優秀賞
美濃紙芸賞
名古屋芸大
選出

メタル&ジュエリー
デザインコース
川中冴恵

野永徳の花鳥図があり、その隣に自分の襖絵が並べられることになったことについて「永徳と比較されたら敵うわけがない。歴史的にも最高峰であり、勝負にならない。伝統的な美術の世界でこそ求められているのはコンテンポラリーアートではないか。類型にとらわれず、比較されない形で自分を展開する気持ちで制作しよう。自分が美術史のどの流れにある作家であるかを自覚しつつ、前例にない仕事をやっていこう」という考えに至ったといいます。

この命題を前置きに、旧石器時代のショーヴェの洞窟壁画にはじまり、中世、西洋絵画の父と呼ばれるジョット、ルネサンスのポッティチェリとミケランジェロ、続きダビ

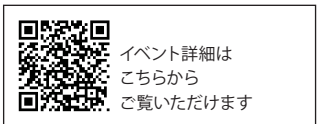
ンチと同時代の狩野永徳、さらに尾形光琳、浮世絵の北斎と広重、洋画に戻り印象派、その延長として現代アートのはじまりであるデュシャン、その流れからウォーホル、ラウシェンバーグ、そしてダン・レイヴィンやウォルター・デ・マリア、アンゼラム・キーファー、ゲルハルト・リヒターといった現代の作家までの作品と背景をかけ足で説明します。

旧石器時代の壁画からは「観察と記録」という絵画の機能にはじまり、「時間と空間」を意識していたと指摘。中世の絵画からは見えないものを見るようにし始めたこと、さらにルネサンスや狩野永徳、印象派からは時代背景に対して社会の希求を見いだします。こうしたなか

から芸術の役割として「ないものを指摘し、あるべき世界を示す」ということを挙げ、「美とはなにか？」という問いには「生きていて良かった、元気が出たと、生きるということに対して前向きになる気持ちを感じさせる働き」が美であり美的感動だと説明します。「美は生きることを肯定し応援する感性である」と結論付け、生きていくための本能であるといいます。優れた芸術の要件として「プロセスが見えること」を挙げ、絵画に限らずすべての領域の作品でプロセスが見えることが、芸術と工業製品を区別する要件の一つと説明します。「類型のない作品を生むにはどうしたらいいか？」という問いには、「地球上、また歴史上においても自分とまったく同じ

人は絶対に存在しない。つまり、自分自身のすべてを画面に出せば、類型のないものが必ずできる」と説明し、その上で「美術史上のどの文脈の流れの中に自分が位置しているか、という自覚」が大切といい、それが無いと美術史的に宙に浮いてしまうと説明しました。「類型のない作品を生むためには、過去を知ることが大切で、伝統は、常に類型のない新しいものの積み重ねである」と説きました。

ものの見方と論理的な制作の思考は多くの示唆に富み、非常に有意義な講演となりました。





「17の部屋・耳鳴り」

大学院修了制作展優秀賞
名古屋芸大展選出

大学院 美術研究科 美術専攻
同時代表現研究
宇留野圭



「あなたのために」
大学院修了制作展優秀賞

大学院 デザイン研究科
デザイン専攻
メディアデザイン研究
霍然



「生まれた椅子」

ブライトン大学賞佳作
名古屋芸術大学美術・デザイン同窓会賞
ギャラリーかんしょ賞
立風賞
名古屋芸大展選出

アートクリエイターコース
金城琉斗



「かべあと」

ブライトン大学賞佳作
イラストレーションコース
水野颯太

「一〇八」
ブライトン大学賞佳作
日本画コース
手塚明日香



EVENT REPORT

名芸卒業生トークイベント

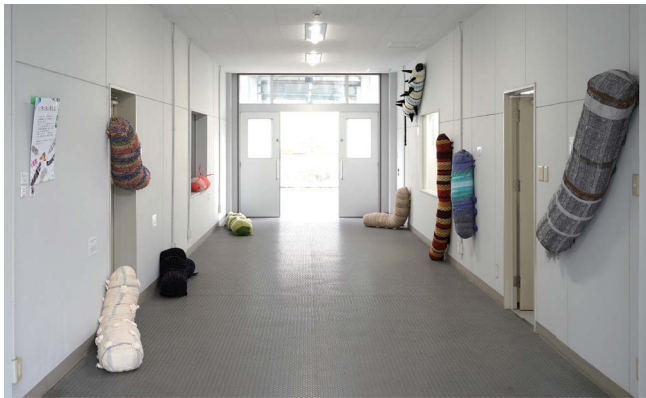
「私の出発点～そういえば、原点（ルーツ）は、名芸だよな」



卒業制作展 50 回記念講演会第 2 弾は、2023 年 2 月 19 日（日）、美術、デザインの世界で活躍する本学 OB、OG がパネラーとして参加するトークイベント「私の出発点～そういえば、原点（ルーツ）は、名芸だよな」を行いました。

参加者は、荒木由香里さん（アーティスト、2005 年卒業、コミュニケーションアートコース非常勤講師）、石川幸奈さん（日本画家、2013 年卒業）、白澤真生さん（drowrope/グラフィックデザイナー、2005 年卒業、テキスタイルデザインコース非常勤講師）、水野里奈さん（アーティスト、2012 年卒業）、服部隼弥

さん（Bouillon/デザイナー、2009 年卒業、スペースデザインコース非常勤講師）、藤原葵さん（アーティスト、2016 年卒業）の 6 名。6 名のうち 3 名が現在非常勤講師を務めており、学生にとって先生であり、身近な先輩でもあります。どんな作品を作って、どんな学生生活を送っていたのか、教える学生にとってはとても興味深いトークイベントとなりました。ファシリテーターをスペースデザインコース 駒井貞治教授、コミュニケーションアートコース 松岡徹教授（松岡教授も本学 OB）の両氏が務め、トークを大いに盛り上げました。



「いろいろもむし」

立風賞

テキスタイルデザインコース
小笠原希



「線と時間」

名古屋芸術大学後援会賞
立風賞
MOZOワンダーシティ賞
イラストレーションコース
杉山晃生



「EROSION」

名古屋芸術大学後援会賞

大学院 美術研究科
美術専攻
同時代表現研究
張陽



「家事分担を促進する
デザイン提案」

名古屋芸術大学後援会賞

インダストリアル&
セラミックデザインコース
米島颯良



「花にささやく」

名古屋芸術大学後援会賞

日本画コース
山本史歩子

トークは、Q1. 学生時代はどんな学生だった?、Q2. 将来どんなふうになりたいと思ってた?、Q3. 卒業制作の思い出は?の3つの問いに、それぞれが答えていく形で進められました。

Q1の問いには、「全力でなんでもやるタイプ。遊びも実技もバイトも。よく倒れてた」(荒木)、「真面目な学生。でも、学校よりも家にこもって制作しているタイプ」(石川)、「テキスタイルだったけど、スペースデザインかインダストリアルデザインの部屋にいる方が長かった」(白澤)、「皆で批評会をしたり充実してた。毎日、ずっと残って制作してた」(水野)、「家が遠くて通学するよりクルマに寝泊まり。自分の興味のある授業は受けても他は…」

(服部)、「洋画棟の環境が良くて喜んで描いてばかりいた。メンバーも良かった」(藤原)と、それぞれの学生時代を開陳。

Q2については、一様に学生時代からの希望を叶えているといえます。ただし、「学生の頃には、もっと有名になっているつもりだった(笑)」(白澤)という声もあれば、「アーティストになりたいと思っていたけど、トリエンナーレに出品することになるとか、具体的に想像していませんでした」(藤原)など、それぞれに学生時代の思いと現在を振り返り、考えが変わったことなどの意見が出されました。

Q3については、見せたくないという男性陣に対し、「体力面で不安がありつつも、考えていることを精

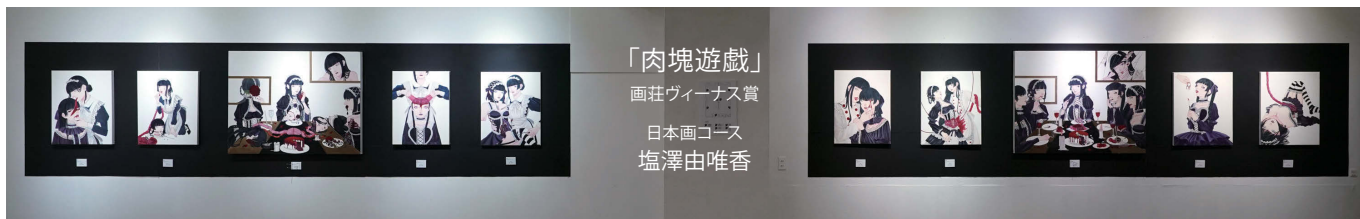
一杯やった」(石川)、「言ったことは必ずやらなきゃいけないという庄司達さんの教えを守って、武士みたいな気持ちでやっていました(笑)」(荒木)、「制作しているときにたまたま学校に来られていた奈良美智さんが見てくれて、いいねといってTwitterにアップされ、すごく励まされました」(水野)と貴重な経験も飛び出しました。

最後に、学生へのメッセージとして「とにかくたくさんいいものを見て、経験を増やして欲しい。目を肥やして欲しい」(荒木)、「学生時代に画材の特徴や技法についてもっと聞いておけば良かったと後悔。聞ける環境なので、どんどん聞いてチャレンジして欲しい」(石川)、「大きな目標を立てると、今やるべ

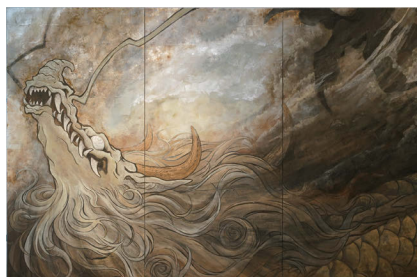
きことが見えて来る。モチベーションも上がるのでリアルな目標を立てて」(白澤)、「あきらめないことが大切。もしダメになっても、自分にながができるかを考えてもう一度やってみて欲しい」(水野)、「デザインの仕事では奇をてらいがち。背伸びせず自分の生活目線で無理していないかを考える、素直な仕事を」(服部)、「今できることに全力で取り組んで欲しい。その経験が1度でもあると心の支えになってくれる」(藤原)と、温かいアドバイスが贈られました。



イベント詳細は
こちらから
ご覧いただけます

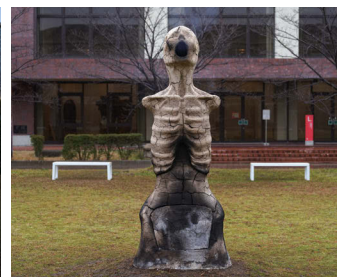


「肉塊遊戯」
画荘ヴィーナス賞
日本画コース
塩澤由唯香



「命のファンファーレ」
画荘ヴィーナス賞
アートクリエイターコース
齋藤勇介

「乗風蜃龍図」
後藤紙店賞
美濃紙芸賞
大学院 美術研究科
美術専攻 絵画研究
日本画制作
李姝霖



「メント・モノ」
ギャラリーかんしょ賞
ライフスタイルデザインコース
滝沢陽菜



「まったりmonkies」
ギャラリーかんしょ賞
ギャラリー MOS賞
日本画コース
鈴木彩香



「スターズプリンクル・ドーナツの宇宙旅行 (星観■ソク 者ヤ????の ■■???????)」
名古屋芸大展選出
テキスタイルデザインコース
石井芳



「山にふれる方法」
名古屋芸大展選出
アートクリエイターコース
新川未悠

EVENT REPORT

卒業制作展記念講演会

映像作家 OSRIN 氏「どんぐりのせいくらべ」



卒業制作展 50 回記念講演会の最後は、本学ライフスタイルデザインコース卒業生でもある映像作家 OSRIN 氏。2023 年 2 月 26 日 (日) に「どんぐりのせいくらべ」と題し、卒業してから現在に至るまでクリエイターとして感じてきたことや映像制作の実際についてなど、さまざまな事柄についてお話いただきました。

2013 年卒業の OSRIN 氏は、学生にとって年齢も近く身近な存在でありながらも、King Gnu の MV など一連の仕事は憧れの存在でもあります。会場となった体育館には多くの受講者が集まりました。

講演では、自己紹介から始まり、

若い頃の感情・経験、今の思考までさまざまな話をして頂きました。

OSRIN 氏の大学在学中は、ホストクラブでアルバイトしながらライフスタイルデザインコースで課題をこなしていたという異色の経歴。映像を作る専攻でないものの映像制作会社へ就職、AD として映像制作現場の雑務をこなしつつ自分がやりたい仕事ってなんだろうと考えた 3 年間だといいます。2016 年に PERIMETRON の作品をリリース、そこからの 6 年間で 200 案件を超える作品を制作。

この 10 年を振り返ると「映像を作るコースでもなかったのに映像



「桃模様」
共栄食品 学生食堂賞
MOZOワンダーシティ賞
テキスタイルデザインコース
江口桃世

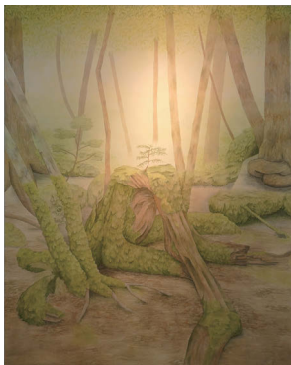
「テクノロジーと
古典芸能の可能性
新作能は何を満たせば
能なのか」
共栄食品 学生食堂賞
リベラルアーツコース
南隆之介



「ありのまま」 日本画コース
古川美術館賞 竹内亜美



「終着点、廻る」 大学院 美術研究科 美術専攻
立風賞 絵画研究 日本画制作
安藤祐実



「深奥」
後藤紙店賞
美濃紙芸賞
名古屋芸大展選出
日本画コース
中村安砂美



「Labor/Work/Action」
CBCテレビ賞
大学院 美術研究科 美術専攻
同時代表現研究
鏡大地

でメシを喰っていきけるのか、いろいろなことが不安だった。誰々はどこどこへ就職したとか、どこそこへインターンへ行ったとか、誰々の給料はどれぐらいとか、聞きたくもない話ばかり気にしてしまい、複雑な思いでいた」といいます。今回の講演では、そうした気持ちを寓話にし紙芝居にして説明していただきました。背をくらべるどんぐりたちと、それを見下すようにあざ笑う北風、さらに北風さえも包み込むような山、3者の視点の違いともいうべきお話です。「北風ってじつは自分のことで、数年前まで自分がそんな感じだったと思う」といい、他者と自分を比較することに嫌気が差し、くらべるという行為自体を見下すようになってしまっていたといえます。

「見下すということは、その人たちと自分をくらべていることになってしまっていて、矛盾していると思うようになり反省した。くらべるとは、人のことを肯定的に見たり、客観的に自分を愛せたり、そうしたこともできる」と比較することをポジティブに変えることで、この10年間やってこられたと説明します。否定せずしっかりと捉え直すことが切磋琢磨を生み、より良いものを生み出すことにつながっていくと説明し、これから社会へ出る学生たちに、不安があっても生き抜いて欲しいとエールを送りました。このほか、King Gnu「カメレオン」のMVのコンセプトや絵コンテなど具体的な映像制作の実際も紹介、作品の裏側にある思いなども

紹介していただきました。質疑応答ではたくさんの質問が挙がり、アイデアが出ないときにはどうしていますか、という問いには「自由で作って良い場合などテーマが広すぎると考えにくい。誰に伝えたいかターゲットを絞ることでアイデアも絞り込まれ考えやすい。誰に喜んでもらうかを考えること」と回答。参加した高校生からの、どういう気持ちで芸大に入って、どういう気持ちで卒業したかを教えて、という質問には「高校時代、進学するつもりはあまりなかったけど、拾ってもらえて入学、目標もなく過ごしていた。ただ漠然と友達と一緒に働きたいという気持ちがあった。手に入れたカメラで親友の誕生日の映像を作り、それを見て飛び跳ねて喜

んでくれて、自分も泣いて、みんなで泣いたことが映像制作の始まり。映像って強すぎると感じた。大きな目標もないままだったけど、誰かのために映像を作って、あんな気持ちをもっと味わいたいというのが動機になっていると思う」と映像制作に携わるようになったきっかけなども紹介していただきました。「誰かのためになることをどう見せるか、映像でもグラフィックでも紙芝居でも同じで、アウトプットが異なるだけ。それにこだわってやってきたことがこの10年だった」とまとめ、講演は終了となりました。





「割れ」
画荘ヴィーナス賞
洋画コース
石川奈那子



「Seen from both sides」
名古屋芸大展選出
大学院 美術研究科 美術専攻
同時代表現研究
中崎由梨



「Visage 一顔一」
名古屋芸大展選出
大学院 デザイン研究科 デザイン専攻
ヴィジュアルデザイン研究
川浦真歩

EVENT REPORT

名古屋芸術大学ローターアクトクラブが企画
卒業・修了制作展50回記念 チャリティーオークションを開催



卒業・修了制作展開催50回を迎えるに当たり、今年度は大学初の試みとして2023年2月25日(土)に、「名古屋芸術大学 チャリティーオークション」を開催しました。名古屋芸術大学ローターアクトクラブは、地域社会で活動する人や団体とコラボレーションし共にボランティア活動を行うサークル。これまでもNPO法人や他のローターアクトクラブと協業を行うなど、例年、さまざまな活動を行って来ました。今回のチャリティーオークションでは、売上の一部をポリオ根絶を支援するロータリー財団に寄付しエンドポリオの活動を知ってもらうこと、そして、学生作品を販売

することで作品と社会のつながりや作品の市場価値を知ることが目的として企画されました。オークション開催の前に、名古屋芸術大学ローターアクトクラブ 幹事の鮫島朱さんからは「ここにあるのは、いまはまだアーティストの卵たちの作品ですが、将来、必ずや世に出てくる人たちのものだと思います。そうした作品に熱い視線を送って下さり厚く御礼申し上げます」とあいさつがありました。

司会進行は、声優アクティングコース 福満薫講師と、声優アクティングコース3年 伊藤大雲さんが務め、軽快なトークで会場を大いに盛り上げます。出品も気軽に買え

そうな学生作品から十万円を超える大作、特別客員教授のサイン入りCD、OBである映像作家OSRIN氏のサイン色紙、長谷川喜久教授による“似顔絵ミニ掛け軸”や松岡徹教授による“にがお胸像”、果ては萩原周教授による“法螺貝”など、バラエティ豊かな品々です。教員推薦の作品もあり、平面と立体それぞれに長谷川教授と松岡教授が解説、作品鑑賞としても楽しめました。学生作品とはいえ制作費と制作時間からしても非常に割安なものもたくさんあり、ときには

激しい競り合いとなり会場は大いに沸きました。

- 53品出品中44点落札
- 総落札金額721,500円
- うち寄付金額183,200円(予定)

この寄付金につきましては、公益財団法人ロータリー日本財団を通じ、ポリオ根絶の支援金として寄付をさせていただきます。



イベント詳細はこちらからご覧いただけます



名古屋芸術大学 音楽領域芸術祭 “TuTTi”

音楽領域は、初のコース横断共同芸術祭“Tutti”を行いました。
Tutti (トゥッティ / 伊)とは、全奏者による「総奏」を指します。
「TuTTi」では、各コースが中心となる演奏会やパフォーマンス等を
期間シリーズ化し、最後に全コース横断演奏会を開催します。
多様な専門性の融合と、それによる新しい文化の創造を目指します。



声優アクティングコース
卒業公演
『2.5次元
Sound Reading』

2022年12月4日(日)



エンターテインメント
ディレクションコース
卒業公演
『Alice in N.Y.』

2022年
12月10日(土)・11日(日)



ミュージカルコース 卒業公演
『シンデレラ』/
ロジャース&ハマースタイン2世
2022年12月24日(土)・25日(日)



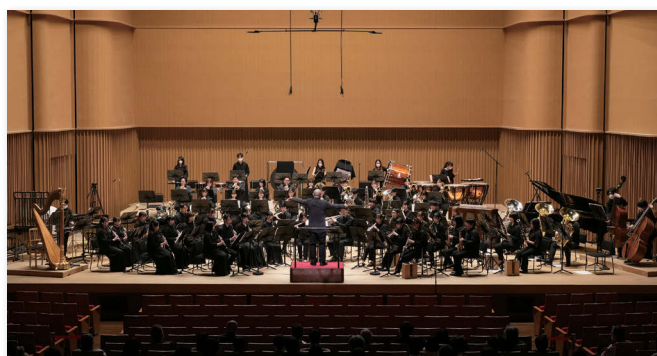
ダンスパフォーマンスコース 卒業公演
『DANPA!〜Re:START LINE〜』

2023年2月11日(土)



アート
マネジメントコース
卒業公演
『はっぴいろまんないと』

2023年2月1日(水)



ウインドアカデミーコース
第4回定期演奏会

2023年2月7日(火)



カレイドスコープ2023
『Novus』

2023年2月11日(土)



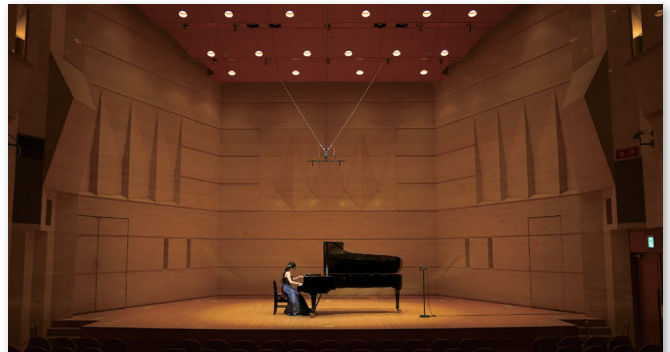
音楽ケア
デザインコース
卒業論文発表会

2023年2月24日(金)



第45回オペラ公演
『コジ・ファン・トゥッテ』
(女はみんなこうしたもの)

2023年2月26日(日)



第25回大学院修了演奏会

2023年3月1日(水)



第50回卒業演奏会

2023年3月9日(木)



ポップス・ロック &
パフォーマンスコース
卒業演奏会

2023年3月12日(日)



Tutti スペシャル公演「白雪姫」

2023年3月26日(日)

アニメコンチェルト

白雪姫



表紙の作品

「命のファンファーレ」

画荘ヴィーナス賞

アートクリエイターコース

齋藤勇介



発行: 名古屋芸術大学
企画・編集: 広報部
デザイン・協力: くまな工房一社
印刷: 株式会社クックス
発行: 2023年4月

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 広報部
〒481-8503
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
電話 0568-24-0318
FAX 0568-24-0369

